



このコーナーでは、九州一安心安全なまちづくりを目指す小林市で活躍する人やその活動など、協働のまちづくりに関する情報を提供します。



地域おこし協力隊  
小林に移住し、活性化を支援  
地域おこし協力隊に4人委嘱



左から、肥後市長、伊藤さん、松瀬さん、瀬尾さん。また田地祐造さんを、10月1日付で委嘱します

人口減少などが進む本市に、都市部の人  
が移住し、地域活性化を支援する「小林市地域おこし協力隊員」を9月1日付で委嘱しました。委嘱を受けたのは、東京都からやってきた伊藤齊さん（前職・デザイナー）、松瀬健治さん（同・福祉施設勤務）、瀬尾絵美さん（同・営業事務）の3人。隊員らはこれまでの経験や知識を生かし、地域資源を活用した商品開発やブランド化の支援、地域活動の支援などに取り組んでいきます。



宝くじ助成（財）自治総合センターが主宰するコミュニティ助成事業  
西町三区と緑町区に、地域活動に必要な備品などを整備

※コミュニティ助成事業とは、宝くじの社会貢献広報事業として、宝くじの受託事業収入を財源として実施している助成事業です

西町三区では、小林中央地区体育館に物置を設置し、折りたたみイスと会議用テーブルを整備。西水流清区長は「敬老会などの行事で活用し、住民の交流を深めていきたい」と話していました。（助成額 200万円）



緑町区では、みどり会館敷地内に物置を設置し、環境美化のための刈払機やリヤカー、交流活動のための室内用ペタンクなどを整備。山口秀喜区長は「住民の絆を深めていきたい」と話していました。（助成額 130万円）



NPO法人  
市内NPO法人間で連携を  
県内初の連絡会を設立

市内のNPO法人間で連携し、情報交換や研修などを行う小林市NPO法人政策連絡会の設立会が、8月30日、市民活動支援センターでありました。NPO法人間が連携する組織は、県内初の試みとなります。設立会では、参加するNPO法人や関係者ら40人が出席。環境や子育て、自殺防止など多様な活動に取り組む各団体が活動内容を紹介したほか、県NPO活動支援センター井上優センター長の講演がありました。



事務局は同センターに置き、今後、企画力向上や補助金獲得のための研修などを行っていきます

# 協働により「九州一安心安全なまち 小林市」を目指して



も応援。

こばやし協働

# Info & News

インフォ アンド ニュース



このイラストは、小林高校2年生海蔵楓華さんが（当時・永久津中3年生）小林市の活性化を願い作成したものです。市の自然（花、星、水、虫）がモチーフになっています。



きずな協働体  
安心安全で魅力ある地域づくりを目指して  
細野中学校区の地域支援員と地域担当職員が決定！



細野中学校区の地域支援員と地域担当職員

### 【地域支援員・敬称略・役職略】

倉田富夫、脇元隆一郎、瀬戸山貴行、高妻賢士、大田宏典、池ノ上一昭、坂下勇、松田利幸

### 【地域担当職員・役職略】

倉園凡生、上原利秋、小園公博、山下康代、山下雄三、佐藤友和、高妻司、前田絵里、中嶋亮輔、児玉未来

9月6日、細野中学校区の地域支援員と地域担当職員が決まり、市役所4階大会議室で委嘱状と辞令が交付されました。地域支援員は、地域担当職員と連携しながら、地域の魅力や課題を発掘し、安心安全で魅力あるまちづくりを推進します。地域担当職員は、協働によるまちづくりの一環で、地域とともに「悩み・考え・行動する」ことで、行

政としての役割を果たすことが目的。配置された職員は、地域の魅力や課題を再発見する活動などを通じて、地域の自主的なまちづくりを支援します。地域担当職員のチームリーダーを務める倉園市民生活部長は「大災害が発生したときに、住民の命を守るのは自助と共助。日ごろから地域のきずなが強まるよう頑張っていきたい」と意気込みを語りました。